



お局塚 サザンカ (あわじ花へんろ 第68番札所)

わたしたちのまちの 景況レポート No. 40

2024年10～12月期実績・2025年1～3月期見通し

今日も 楽しい おつきあい



淡路信用金庫

調査概要

- 調査時期 : 2024年10~12月期実績・2025年1~3月期見通し
- 調査方法 : 当金庫の営業店職員による「聴取り」調査
- 調査企業数 : 669社

製造業	152社	卸売業	98社	小売業	114社
サービス業	115社	建設業	141社	不動産業	49社
- 調査地区 : 当金庫事業地区（洲本市、淡路市、南あわじ市、明石市、神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市、加古郡稲美町、加古郡播磨町、加古川市、高砂市、三木市）
- 分析方法 : D. I.（「良い」「増加」「上昇」の回答割合 - 「悪い」「減少」「下降」の回答割合）
 ※不変部分を除き、「良い」「悪い」のどちらの力がどれだけ強いかを調べる方法

指標	内容	プラス	マイナス
業況	調査時点での回答企業の業況「良い」-「悪い」	良い > 悪い	良い < 悪い
売上額	前期(四半期)と比較した売上「増加」-「減少」	増加 > 減少	増加 < 減少
収益	前期(四半期)と比較した収益「増加」-「減少」	増加 > 減少	増加 < 減少
販売価格	前期(四半期)と比較した販売価格「上昇」-「下降」	上昇 > 下降	上昇 < 下降
仕入価格	前期(四半期)と比較した仕入価格「上昇」-「下降」	上昇 > 下降	上昇 < 下降
人手過不足	調査回答時点での人手「過剰」-「不足」	過剰 > 不足	過剰 < 不足
資金繰り	前期(四半期)と比較した資金繰り「楽」-「苦」	楽 > 苦	楽 < 苦

設備投資企業割合 設備投資実施の有無

例

人手不足▲50とは

人手	(1)過剰 (2)やや過剰 (3)適正 (4)やや不足 (5)不足
----	-----------------------------------

↓ 回答数を集計し、回答割合を算出

	(1)過剰	(2)やや過剰	(3)適正	(4)やや不足	(5)不足	合計
回答数	35	35	210	280	140	700
回答割合	5.0%	5.0%	30.0%	40.0%	20.0%	100.0%

$$\text{人手不足} = 10 - 60 = \blacktriangle 50$$

【問合せ先】

淡路信用金庫 業務部
 担当：玉田、^{もみのき}縦木、坂田
 TEL：0120-22-1020

業種別地区別天気図

業種	全事業地区 (669先)			淡路地区 (385先)			神明地区 (284先)		
	2024年 7~9月 (前期)	2024年 10~12月 (今期)	2025年 1~3月 (見通し)	2024年 7~9月 (前期)	2024年 10~9月 (今期)	2025年 1~3月 (見通し)	2024年 7~9月 (前期)	2024年 10~12月 (今期)	2025年 1~3月 (見通し)
総合									
製造業									
卸売業									
小売業									
サービス業									
建設業									
不動産業									

好調 ← → 低調

全業種

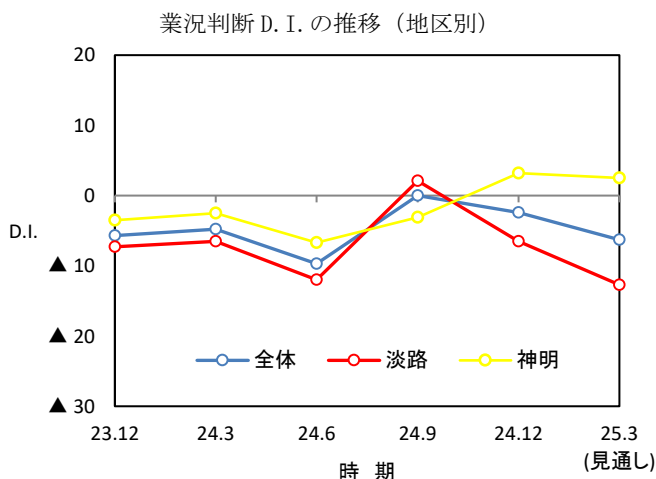
前期 今期 来期

今期（2024年10～12月期）の業況判断D.I.は▲2.4となり、前期（2024年7～9月期）▲0.1に比べ2.3ポイント悪化となり、依然として不安定な状況に変わりない。項目別では、売上額は5.2（前期8.0）と2.8ポイント減少、収益も前期比4.5ポイント減少し▲4.5となった。販売価格は24.5（前期23.7）と0.8ポイント上昇し、仕入価格は45.1（前期44.7）と0.4ポイント下降している。人手過不足については▲26.5（前期▲26.1）と不足状態が続いている。資金繰りについては、▲7.8（前期

▲6.4）とやや苦しくなっている。

来期（2025年1～3月期）の業況判断D.I.については▲6.3と3.9ポイントの悪化を見込んでいる。他の項目でも、売上額・収益等減少する見込みである。業種別では今回も建設・不動産を除く4業種で悪化見通しである。

(D.I.)



	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	-0.1	-2.4	-6.3
売上額(前期比)	8.0	5.2	-4.8
収益(前期比)	0.0	-4.5	-10.5
販売価格(前期比)	23.7	24.5	15.4
仕入価格(前期比)	44.7	45.1	32.6
人手過不足(過剰-不足)	-26.1	-26.5	-26.3
資金繰り(楽-苦)	-6.4	-7.8	-7.5
設備投資実施企業割合(%)	12.6	14.4	11.1

製造業

前期 今期 来期

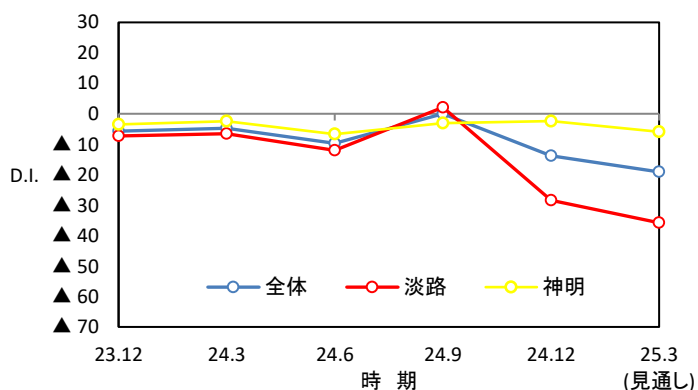
今期の業況判断 D. I. は▲13.8 (前期▲13.2) と 0.6 ㊦の悪化となった。地区別の業況は、淡路地区▲28.4(前期▲19.4)と9.0㊦の悪化、神明地区▲2.4(前期▲8.2)と5.8㊦の改善となった。来期については、業況が▲19.1の5.3㊦とさらに悪化する見通しで、売上額・収益なども減少見込みとなっている。

お客様の声

受注状況は減少傾向に加え、材料価格の高騰により厳しい業況が続いている。脱炭素化への取組みについては、認識不足であり事例の紹介により知識を高めていきたい。(淡路)

業界を取り巻く環境は年々厳しさを増しているが、当社は安定した売上で推移している。特にコロナ禍以降、手元資金を確保するよう心掛けている。脱炭素化の取組みは必要と感じているが、具体的な取組みに至っていない。(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	-13.2	-13.8	-19.1
売上額(前期比)	5.3	0.7	-9.2
収益(前期比)	-7.2	-13.2	-19.7
販売価格(前期比)	31.6	30.3	19.7
仕入価格(前期比)	52.0	56.6	39.5
人手過不足(過剰-不足)	-25.7	-17.1	-24.3
資金繰り(楽-苦)	-13.2	-17.1	-17.8
設備投資実施企業割合(%)	11.3	15.1	14.5

卸売業

前期 今期 来期

今期の業況判断 D. I. は 2.0 (前期 11.2) と 9.2 ㊦悪化となった。地区別の業況は、淡路地区 0.0(前期▲10.2)と10.2㊦の改善、神明地区は5.1(前期12.8)と7.7㊦の悪化となる。来期については▲6.1と8.1㊦さらに悪化の見込であり、売上額・収益についても今期より大きく減少する見通しとなっている。

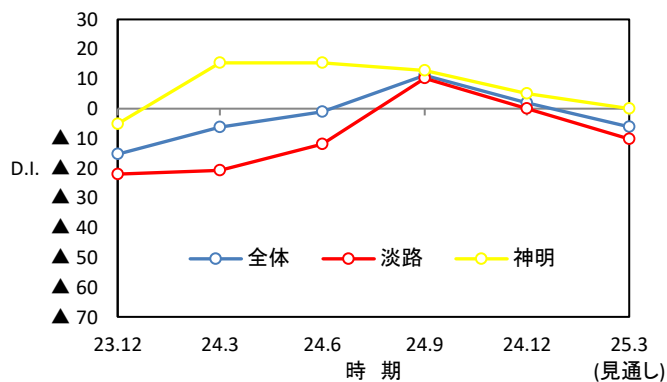
お客様の声

国内飲食店の復調を背景に、足元の業況は、やや増収・増益基調で推移。また円安による物価高やコスト上昇の影響を受けるも、価格改定や業務改善を図り利益を確保している。(淡路)

取扱商品は、景気に左右されにくい為、売上の増減は少ない。直近決算では、原材料上昇に伴う、取引先への価格改定を交渉し大口受注を失注した。現在、新技術をPRし、新規取引先の開拓が図られている。

(神明)

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



(D.I.)

	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	11.2	2.0	-6.1
売上額(前期比)	17.3	2.0	-13.3
収益(前期比)	11.2	-7.1	-11.2
販売価格(前期比)	32.0	28.6	19.4
仕入価格(前期比)	43.9	34.7	23.5
人手過不足(過剰-不足)	-16.3	-18.4	-21.4
資金繰り(楽-苦)	3.1	-4.1	-6.1
設備投資実施企業割合(%)	13.3	16.3	12.2

小売業

前期 今期 来期



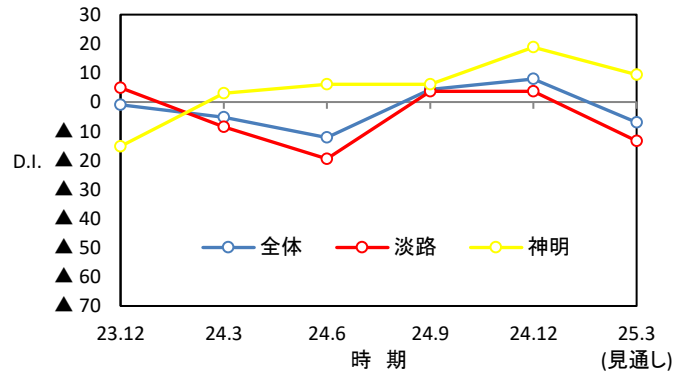
今期の業況判断D.I.は7.9(前期4.3)で3.6割の改善となった。地区別では、淡路地区は3.7と横ばい、神明地区は18.8(前期6.1)と改善している。来期の業況は、▲7.0と14.9割の悪化見通しであり、売上額・収益についても今期より大幅に減少する見通しとなっている。

お客様の声

売上は確保できているものの、人件費等の諸経費増加が続いて利益面を圧迫している。現在余剰人員の見直し、電力会社の切り替えにより経費削減に取り組んでいる。(淡路)

原材料(米、肉)の高騰による商品の値上げを実施。値上げ幅も高く客離れが進んでいる。若手アルバイトは増加しているが、現在の従業員は時給面から離職が増加しており、依然として人材は不足している。(神明)

業況判断D.I.の推移(地区別)



(D.I.)

	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	4.3	7.9	-7.0
売上額(前期比)	13.0	15.8	-6.1
収益(前期比)	3.5	3.5	-12.3
販売価格(前期比)	20.9	28.9	12.3
仕入価格(前期比)	50.4	47.4	28.1
人手過不足(過剰-不足)	-15.7	-16.7	-15.8
資金繰り(楽-苦)	-7.0	-7.0	-6.1
設備投資実施企業割合(%)	9.6	7.0	4.4

サービス業

前期 今期 来期



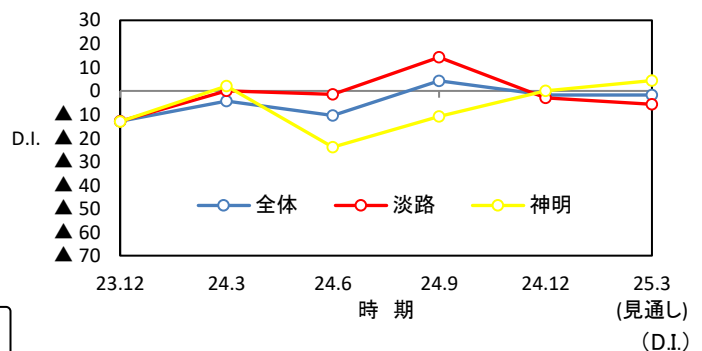
今期の業況判断D.I.は▲1.7(前期4.3)となり6.0割悪化となった。地区別の業況は、淡路地区▲2.9(前期14.3)と大きく悪化、神明地区は0.0(前期▲10.9)と改善している。来期の業況は、▲1.7と横ばいで推移、売上額・収益は増加する見込み、人手過不足は▲30.4割と高い水準で不足が続く見通しとなっている。

お客様の声

取引先の廃業により売上は減少している。加えて、材料価格の上昇で価格転嫁できず収益の圧迫を余儀されている。さらに既存取引先からの料金値下げ要請もあり厳しい状態が続いている。(淡路)

県内全域と近隣他府県の運送であるが、燃料価格高騰、ドライバー不足等により経営環境は厳しい。配送方法等の業務効率化、見直し等に取り組んでおり、徐々に効果は表れている。(神明)

業況判断D.I.の推移(地区別)



(D.I.)

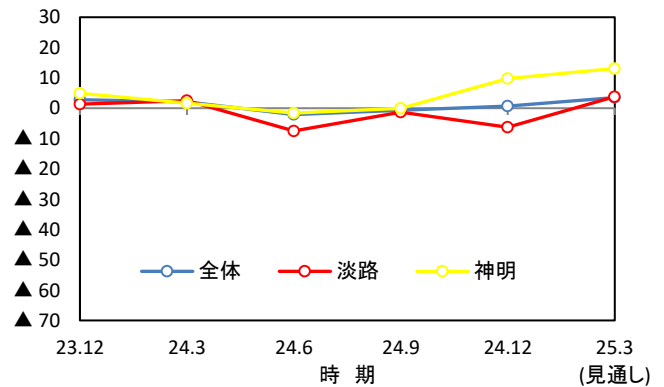
	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	4.3	-1.7	-1.7
売上額(前期比)	12.9	-3.5	0.0
収益(前期比)	6.0	-8.7	-7.0
販売価格(前期比)	17.2	14.8	11.3
仕入価格(前期比)	37.9	48.7	41.7
人手過不足(過剰-不足)	-31.9	-31.3	-30.4
資金繰り(楽-苦)	-11.2	-6.1	-7.8
設備投資実施企業割合(%)	17.2	17.4	13.0

建設業

前期 今期 来期



今期の業況判断 D. I. は 0.7(前期▲0.7)と 1.4 ㊦改善となった。地区別の業況は、淡路地区は▲6.3(前期▲1.3)と 5.0 ㊦悪化、神明地区は 9.8(前期 0.0)と 9.8 ㊦改善となった。来期の業況は 3.5 と 2.8 ㊦改善する見通しである。人手過不足については、▲44.0 の見通しで、依然として慢性的な人手不足の状態が窺える。



お客様の声

業況は順調に推移。人手不足の課題と技術力向上、職場環境の改善を目的とし、設備面の充実に取り組んでいる。企業イメージ面においても脱炭素化には関心がある。(淡路)

コロナ禍の収束に伴いメイン先からの受注は良好。しかしながら社員の高齢化及び人手不足から、現場で働く社員の労働生産性が上昇しない事が課題である。(神明)

(D.I.)

	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	-0.7	0.7	3.5
売上額(前期比)	0.0	11.3	2.8
収益(前期比)	-8.5	1.4	-2.8
販売価格(前期比)	19.9	21.3	12.8
仕入価格(前期比)	45.4	43.3	31.9
人手過不足(過剰-不足)	-41.8	-43.3	-44.0
資金繰り(楽-苦)	-2.8	-4.3	-0.7
設備投資実施企業割合(%)	12.1	15.6	10.6

不動産業

前期

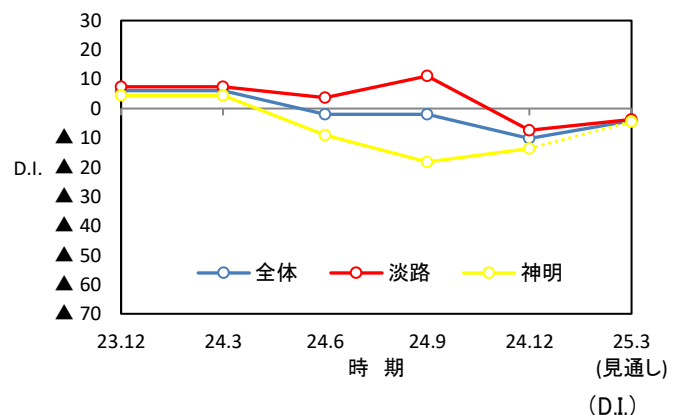
今期

来期



今期の業況判断 D. I. は▲10.2(前期▲2.0)と 8.2 ㊦悪化となった。地区別の業況は、淡路地区は▲7.4(前期 11.1)と 18.5 ㊦悪化、神明地区は▲13.6(前期▲18.2)と 4.6 ㊦改善となっている。全国的にも横ばいもしくは、低下傾向となっている。来期の業況は、▲4.1 ㊦とやや改善の見通しである。

業況判断 D. I. の推移 (地区別)



お客様の声

業況については例年並みで推移。土地がよく動いているが当社は比較的落ち着いている。市政の問題が解決すれば当地区も変わってくる。脱炭素化に向けた取組みについては、出来ることは実施している。(淡路)

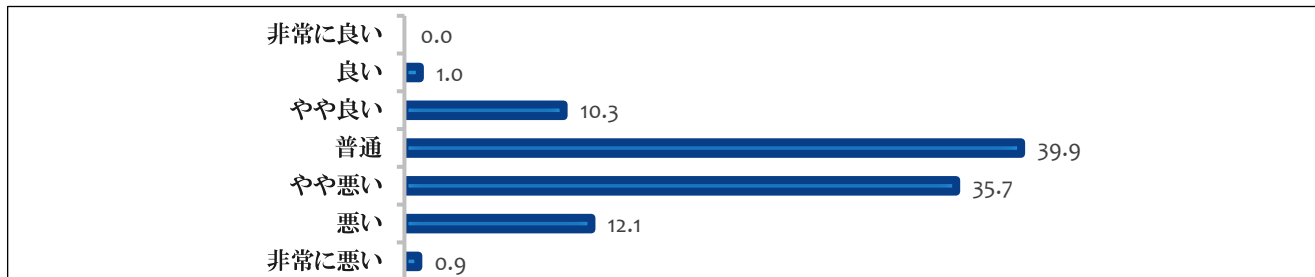
阪神エリアの住宅需要は高水準を維持しているが、土地価格、建物コストの高騰が続いている。地域特性等を考慮した物件仕入により適正な在庫を確保している。(神明)

(D.I.)

	24年9月 (前期)	24年12月 (今期)	25年3月 (見通し)
業況	-2.0	-10.2	-4.1
売上額(前期比)	-2.0	4.1	-4.1
収益(前期比)	2.0	2.0	-6.1
販売価格(前期比)	16.3	20.4	18.4
仕入価格(前期比)	24.5	22.4	20.4
人手過不足(過剰-不足)	-12.2	-6.1	-6.1
資金繰り(楽-苦)	-2.0	-2.0	0.0

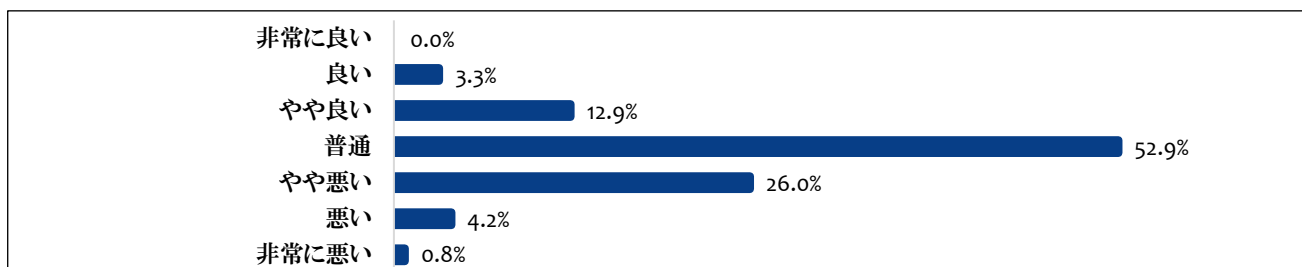
問1.貴社では、2025年の日本の景気をどのように見通していますか。

2025年の景気見通しについては、「良い」(「非常に良い」「良い」「やや良い」の合計)と回答する割合が11.3%(前年10.9%)、「悪い」(「やや悪い」「悪い」「非常に悪い」の合計)が48.7%(前年52.1%)となった。この結果「良い-悪い」は△37.4%と1年前の調査(△41.2%)と比べて3.8%の改善となっている。



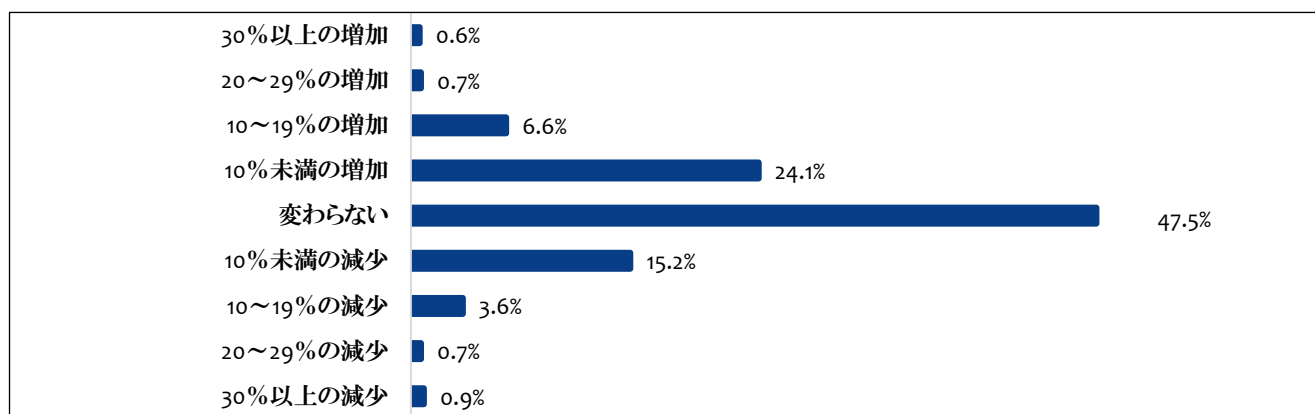
問2.貴社では、2025年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。

2025年の自社の業況見通しについては、「良い」(「非常に良い」「良い」「やや良い」の合計)と回答する割合が16.2%(前年14.5%)、「悪い」(「やや悪い」「悪い」「非常に悪い」の合計)が31.0%(前年35.4%)となった。この結果「良い-悪い」は△14.8%と1年前の調査(△20.9%)と比べて6.1%の改善となっている。



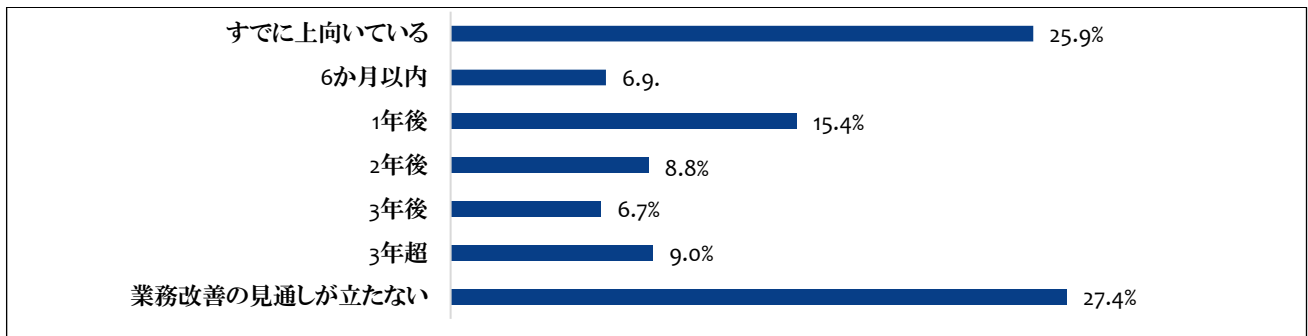
問3 2025年において貴社の売上額の伸び率は、2024年に比べておおよそどれくらいになると見通していますか。

2024年対比で2025年の売上額の伸び率については、「変わらない」と回答したのが47.5%(前年45.2%)と最も多く、前年比「増加」項目の合計割合が32.0%(前年29.3%)を占めた。一方で前年比「減少」項目の合計割合は20.4%(前年25.6%)となっている。地区別についても淡路地区・神明地区でそれほど差はなく「変わらない」の項目が一番多くなっている。業種別についても全業種が「変わらない」の回答が最も多くなっている。



問4. 貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

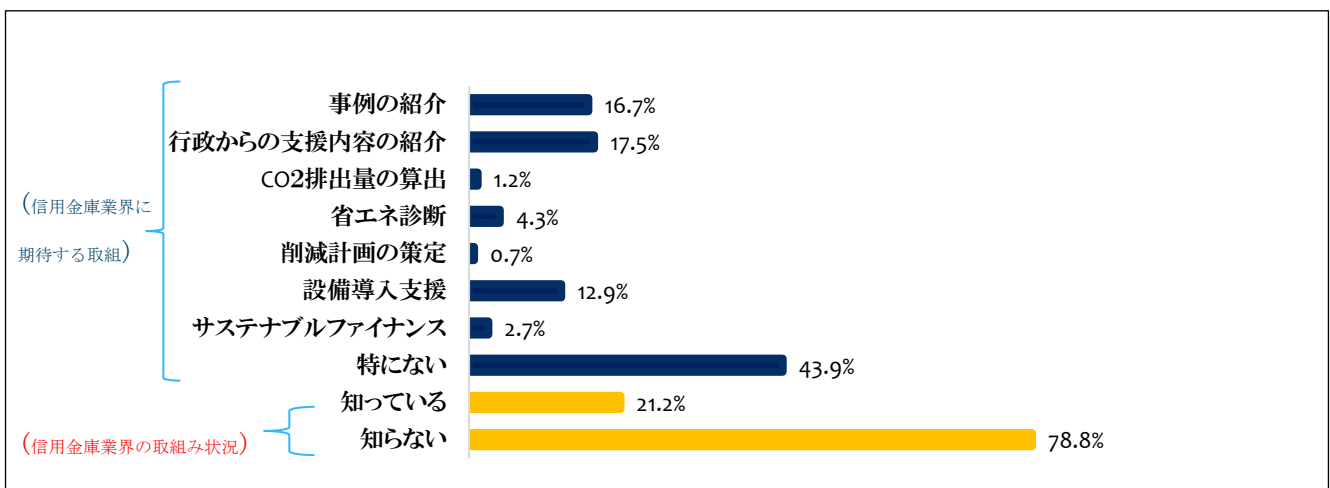
自社の業況が上向き転換点については、「業況改善の見通しは立たない」が27.4%(前年25.2%)と最も多かった。次に多かったのが「すでに上向いている」で25.9%(前年23.1%)。地区別では、淡路地区は「業況改善の見通しは立たない」の項目が最も多く31.4%(前年30.4%)、次いで「すでに上向いている」の項目が26.0%(前年23.6%)となった。神明地区では「すでに上向いている」の項目が25.7%(前年22.4%)と最も多く、次いで「業況改善の見通しは立たない」の項目が21.8%(前年18.2%)であった。業種別では、小売業・サービス業が「業況改善の見通しは立たない」の割合が最も多くなっている。前年業種別での、製造業・卸売業・建設業は「すでに上向いている」の割合が多くなっている。



問5. 脱炭素化への取り組み（具体的な例は下記の枠の中をご覧ください）についてお伺いします。

信用金庫業界に期待する脱炭素化への取り組みについては、「特にない」が43.9%と最も多く、次に多かったのが、情報提供としての「行政からの支援内容の紹介」17.5%、「コスト削減事例の紹介」16.7%となる。アンケートの中で、脱炭素化への関心はあるものの、認識がなく知識を高めていきたい回答が多かった。

信用金庫業界が地域のために積極的な脱炭素化への取組みをおこなっていることについては、「知らない」が78.8%となっている。



淡路コンクリート圧送 株式会社

弊社の創業は、平成12年11月、淡路島内の生コン圧送業者6社が合併して設立されました。現在、ポンプ車12台を保有し、従業員は20名、20代～70代まで幅広い年齢層の従業員が従事しています。営業エリアは、淡路島内だけではなく、四国、神戸、大阪など多くの現場で作業を行っています。

生コンクリート圧送工事は、「生きもの」である生コンの品質を変えることなく、圧送することが不可欠であり、コンクリート圧送技能者による経験と技術が必要な職人仕事です。毎回現場が違えばその場で関わる人も生コンも変わるため、コミュニケーション能力も必要となり、従業員同士もよくコミュニケーションを図ることを心がけており、お互い良い仕事をするにはどうすればいいかなど話し合いながら向上心をもって取り組んでいます。



本社及びポンプ車写真



コンクリートポンプ車による工事現場



メガソーラー写真

株式会社角山は土木工事や太陽光発電設備設置工事を主体に行っており、淡路島以外にも四国や関西圏において工事を受注しています。一般家庭用からメガソーラーまで幅広い施工実績があり、近年ではパワコン取替工事も多数行っています。

社 訓

一、尊 敬
一、信 頼
一、信 用
一、責 任



淡路コンクリート圧送株式会社

〒656-0422 南あわじ市榎列上幡多 858-40

☎0799(42)7050 📠0799(42)7085



株式会社角山

〒656-0422 南あわじ市榎列上幡多 858-40

☎0799(38)4970 📠0799(42)7085

(子会社) 神明工業株式会社

〒655-0861 神戸市垂水区下畑町字雲星 498-2

☎078(752)2198 📠078(752)2229





株式会社 皇蘭

—創業から60年を超える老舗ブランド—

弊社は、昭和34年、創業者の田鍋恭治が北海道から神戸に移住し、“北海食品”の屋号でスタートした企業です。当初はアイスクリームや牛乳類の卸販売を手がけていましたが、その後、事業の多角化を進め、酒類や洋菓子、飲料水の販売にも拡大しました。昭和37年には株式会社化を果たし、さらに本格的な食品メーカーとしての第一歩を踏み出しました。

神戸市灘区 本社



一社)食品安全マネージメント協会
JFS 監査及び適合証明プログラム
でJFS-B 規格 Ver.3.0に「適合」



「五つ星ひょうご」
認定商品



神戸南京町で中華まん、点心 お土産のお求めは皇蘭で

〒657-0852

神戸市灘区大石南町2丁目2番2号

TEL.078-861-1656(代表)

FAX.078-861-1718

<https://www.kouran.com>

—南京町中華街に“皇蘭”をオープン—

昭和55年、観光スポットとして再整備が進められていた神戸南京町中華街に、自社ブランドの店舗“皇蘭”を開店。オリジナルの中華メニューと創作料理が話題を呼び、多くのお客様から愛されるブランドへと成長しました



—全国展開—ブランドの進化—

平成以降はチェーン展開を本格化。神戸や大阪を拠点に店舗数を増やし、現在では関西圏を中心に多店舗展開を行っています。特に令和6年には社名を“株式会社皇蘭”に改め、神戸の名を背負うブランドとして全国区への発展を目指しています。ネット通販や新規店舗開発など、積極的な事業戦略で未来に向けた基盤を築いています。

【皇蘭人気ベスト3】



① 神戸牛肉まん ② 皇蘭おためしセット ③ 皇蘭豚まん

【皇蘭おすすめ商品】



【皇蘭トピックス】

- ・12月24日イオンモール大日店 2F フードコート内皇蘭をオープン
- ・12月27日クロスゲート金沢に創作台湾&中華バル皇蘭をオープン